

(様式1)

令和7年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	学校と地域での主体的な学びを通して自信を深め、健康で心豊かにたくましく生きる児童生徒を育てる
(2) 現状と課題	個々の障害特性に応じた指導の充実が求められているため、特別支援教育に関する専門性の向上、児童生徒が主体的に活動できる授業づくり、生徒指導の充実、小・中・高の一貫性のある教育などが課題である。
(3) 重点目標	1 児童生徒が主体的に取り組むための魅力ある授業づくり
	2 協力体制が発揮できる学校づくり
	3 特性に対応した研修の推進
	4 一貫性のある「キャリア教育」と進路指導の充実
	5 特色ある学校づくりとスポーツ活動の推進
	6 地域社会への理解促進
	7 地域における特別支援教育のセンター的機能の充実
	8 教職員の働き方改革
(4) 結果の公表	保護者、本校職員のアンケート評価結果をそれぞれに配布するとともに、学校のホームページに掲載する。

学校整理番号	特19
学校名	青森県立七戸養護学校
対象障害種別	視覚・聴覚・知的・ <u>知的</u> ・ <u>肢体</u> ・病弱
自己評価実施日	令和 7年 11月 28日(金)
学校関係者評価実施日	令和 8年 1月 27日(火)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
・学校運営協議会委員 9名 もみのき学園園長、七戸町城内町内会会長 シャールーム理事長、七戸美光園園長 株式会社エステックス代表取締役社長 青森県立保健大学健康科学部助教 鷹山宇一記念美術振興会理事長 本校PTA会長、本校同窓会副会長

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	児童生徒が主体的に取り組むための魅力ある授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの目標を意識し、活動をやり遂げる指導の充実</li> <li>・保護者や関係者への説明責任を果たす</li> <li>・人と関わる体験を通じた道徳性の育成</li> <li>・体験学習やICT機器を活用した授業の充実</li> <li>・教員の授業力向上を目指した授業研究の実施</li> </ul>	<p>授業のねらいや活動内容を明示することで、見通しをもって授業に臨み、ICT機器を活用し、主体的に学習活動に取り組む児童生徒が増えた。</p> <p>個別的教育支援計画や個別の指導計画を保護者に十分に説明した上で、授業参観や面談を重ねることにより、学校評価において保護者から高い評価を得ることができた。</p> <p>「道徳」と「プログラミング教育」二つのテーマでの校内研究が2年目となり、それぞれの授業の改善が図られた。また、小中学部において、サポート委員会の授業コンサルテーションを活用した学級担任の学級経営力や授業力の向上が図られた。</p>	B	<p>児童生徒の教育に関して、保護者に対して丁寧かつ的確に説明が行われており、その内容は十分に共有されている。あわせて、学校としては新たな取組を積極的に推進するとともに、教職員が専門性向上を目的とした研究および研修に計画的に取り組んでいる。これらの継続した実践により、設定した目標は概ね達成されていると判断できる。また、このような取組が、保護者から高い評価を得ている要因であることがうかがわれる。</p>	<p>保護者に対する本校の教育活動および各児童生徒の教育計画の説明や授業実践を参観してもらう機会を、より計、保護者の参加しやすい環境をさらに整備し、継続的な情報共有が図られるようにする。</p> <p>サポート委員会の授業コンサルテーションの活用や、校内研究を通じてAIを活用した授業改善に取り組んでいく。</p>
2	協力体制が発揮できる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員のAI活用による業務改善</li> <li>・良好な人間関係の構築</li> <li>・互いに助け合い、協力し合える職場づくり</li> <li>・迅速な報連相がなされる組織づくり</li> </ul>	<p>教務部情報係を中心に校務のAI活用について情報発信を行ったが、活用推進には至っていない。</p> <p>学部や分掌主任と管理職との連携が深まり、迅速な報連相がなされるようになった。</p>	B	<p>先生方にとって風通しの良い、安心して指導や学級経営に取り組むことができる職場づくりが進められていることを実感した。日常的に協力し合える職場づくりに更に努めてほしい。</p>	<p>教務部を中心に校務のDX化を推進し、業務改善に生成AIを活用していく。研修部とも連携し、研修を計画的に進める。</p>
3	特性に対応した研修の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各障がいの特性に対応した専門性の向上</li> <li>・校内外の研修成果の共有と活用</li> </ul>	<p>研修部とサポート委員会が連携し、自閉スペクトラム症の指導について、校内の専門性の高い教員を講師とした学習会を実施した。肢体不自由委員会は、外部講師を活用し、姿勢や運動についての研修会を実施した。また、上北地区特別支援連携協議会主催の研修会を2回開催し、それぞれの障がいに関する専門性の向上を図ることができた。</p>	B	<p>大規模校である本校には、さまざまな障がい特性をもつ子どもたちが在籍しており、その支援には幅広い知識や対応力が求められる。そのため研修が増え、先生方にとって負担に感じられる場面もあるかもしれない。子どもたちへより良い教育を届けるためには、学び続けることが欠かせない。「研修が多いのは学校の特性上当然のこと」と前向きに受け止め、児童生徒の成長のために力を尽くしてほしい。</p>	<p>次年度は、摂食指導の研修、ダウン症に関する学習会を企画している。</p>
4	一貫性のある「キャリア教育」と進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部段階におけるキャリア教育の充実</li> <li>・保護者・地域等への進路情報の提供</li> <li>・児童生徒の実態に応じた進路実現への柔軟な対応</li> </ul>	<p>キャリア教育の全体計画に沿って、各学部では児童生徒の生活年齢や発達段階を踏まえた学習内容を展開した。学校全体でキャリアパスポートを活用し、小・中・高を通した一貫性のあるキャリア教育の推進に取り組んだ。特に高等部では「キャリアチャレンジ（生き方教育）」を実施し、外部講師の力も借りながら、生徒のキャリア発達を支援する機会を継続的に確保した。進路に関する情報発信については、進路情報誌や福祉サービスの資料集などを積極的に提供しているが、小学部の保護者に向けた啓発については、さらなる工夫が求められる。</p>	B	<p>保護者アンケートの結果からは、進路指導に対する期待や関心が非常に高いことが読み取れる。また、生徒が就労した後の支援も大切な要素であり、卒業後の生活まで見据えた進路指導の充実が求められている。今後は、就労後のフォローも含めた幅広い進路支援を行えるよう、進路指導力の一層の向上を図ってほしい。</p>	<p>各学部のキャリアパスポートを活用した指導や支援における好事例を全体で共有し、キャリア教育の考え方を深め、特に小学部教員の指導力の向上を図る。</p>

5	特色ある学校づくりとスポーツ活動の推進	<p>絵のある（造形活動の充実）、花のある（環境整備）、歌声がひびく（音楽活動）、笑顔いっぱい（明朗快活）の学校づくりを通して児童生徒の豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツイベントへの参加や、交流を通じたスポーツ活動及び体づくりの充実</li> <li>・地域をはじめ校外の人々の評価による自己肯定感の向上</li> </ul>	<p>絵画をはじめ造形作品の作品展や公募への出展を積極に行った。数多くの児童生徒の作品が入賞を果たし、新聞等のメディアにもたくさん報じられた。七養作品展も30回を迎え、入場者も1000人を超えるようになった。音楽活動は再開し3年目となるが、職員の合唱活動の検討が必要である。</p> <p>高等部が、道の駅で喫茶コーナーを開いた。小中学部においても、七戸町商工会と連携した地域学習を実施することができた。小学部は、校内の緑地化に取り組み、草花の植樹を行った。</p> <p>高等部が特別支援学校総合スポーツ大会に参加し、他校との交流を通じてスポーツ活動の充実が図られた。中学部では体育の授業で武道（剣道）に取り組み、武道への関心を高めることができた。</p>	B	<p>今年度も作品展は盛況であった。造形活動においては、コンクールでの受賞も多く、特色ある学校づくりが推進されていると感じる。今後も多彩な先生方の特技を生かして、指導してほしい。音楽活動についても造形活動のように外部への情報発信やコンクールがあれば応募するなどしていても良いと考える。</p> <p>児童生徒の自信につながる活動であるため、続けていってほしい。</p>	<p>花のある学校としての緑地整備活動を更に推進していく。また、音楽活動の充実を図り、地域から評価を受けることができるような機会設定を今後も検討していく。</p>
6	地域社会への理解促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と地域が連携・協力した奉仕活動や体験活動の充実</li> <li>・地域の学校との交流及び共同学習（学校間交流）の積極的な実施</li> <li>・居住地校交流に係る情報発信</li> </ul>	<p>中学部が七戸中学校と行っている地域の空き缶拾う清掃奉仕活動は、悪天候のため実施されなかった。</p> <p>小学部高学年は、七戸小学校5学年と、高等部は七戸高校や北里大学と交流学習を実施した。</p> <p>居住地校交流は、小学部児童が32名、中学部生徒が11名が、延べ44回実施され、昨年度より9名増えた。</p>	B	<p>交流校に対しては、本校の理解が進んできているようだ。居住地校交流については、地教委との連携を図るとともに、小中学校への理解を深めるために情報発信などの工夫が必要である。</p>	<p>居住地校交流に係る情報発信を工夫し、社会に開かれた教育課程に対応した地域との協働活動の充実を図る。</p>
7	地域における特別支援教育のセンター的機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上北地区特別支援連携協議会事務局として、地域の特別支援教育に関する積極的な支援</li> <li>・特別支援教育の取組について、ホームページや情報機関等の活用した積極的な情報発信</li> </ul>	<p>上北地区特別支援連携協議会に市町村教育委員会がメンバーとして参加し、地域が抱える特別支援教育に関する課題を共有することができた。県の事業「チームで支える特別支援教育校内支援体制充実事業」において、実践校小中高3校に対し、計8回の研修や相談に対応した。巡回相談は、小、高2校に対し、8回実施した。</p>	B	<p>地域の教育委員会と連携をして、地域の特別支援教育を推進に努めてほしい。</p>	<p>上北地区特別支援連携協議会が主催する研修会は、講師の招聘が難しいため、年1回とする。チームで支える特別支援教育校内支援体制充実事業の実践校には、次年度以降も要請に応じて支援していく。</p>
8	教職員の働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の業務負担の軽減</li> <li>・教職員の家庭生活と職場生活のバランスを考慮した業務分担</li> </ul>	<p>学校の幸せ推進室で実施している業務改善ワークショップを活用し、本校の行事の見直しやA Iの校務活用等について、全職員で検討した。運動会と学習発表会の隔年開催が、次年度より実施されることとなった。また、PTA活動の見直しを図られ、次年度より効率化の図られた活動を試験的に実施することとなった。</p>	C	<p>A I等のテクノロジーの活用推進もさることながら、先生方のキャリアに見合った業務量や人材育成に基づいた業務の割り当てなどを心掛けて、業務量の平準化を図る必要がある。</p>	<p>教務部を中心にA Iを活用した校務改善や研修部と連携した授業改善を図り、学校のDX化を推進していく。教員個々の業務の見える化を図り、学部や分掌業務が定期的に重ならないよう調整する工夫が必要である。また、引き続き業務改善ワークショップを活用した働き方改革に取り組んでいく。</p>
(11) 総括	<p>保護者のアンケート結果からは、22項目中20項目において3.5以上（「達成できている」）との評価を得ていることから、本校の教育活動に対する保護者の理解は高い。また、昨年度と同様に進路指導の充実や教員との話し合いの機会を要望する声が多く、保護者が授業や児童生徒の様子を見る機会や保護者間のコミュニケーションの充実を図っていく必要がある。教職員のアンケート結果からは、昨年度以上に業務分担の偏りや研修、打合せなどが多いことが指摘された。A Iを活用した業務改善に向けた取り組みを推進していく一方で、教職員自身が主体的に取り組む意識の向上を図っていく必要がある。</p>					